



News Release

2020年2月3日

白河市
NTT東日本 福島支店

白河市とのAI-OCRとRPA活用実証実験開始について

NTT東日本福島支店(支店長 山貫昭子、以下、「NTT東日本」)は、白河市(市長 鈴木和夫、以下「白河市」)と連携し、白河市における自治体業務においてAI-OCR^{※1}とRPA^{※2}を活用し、業務における適合及び業務効率化への有効性を分析・検証する実証実験を開始します。

自治体業務では、紙を用いる業務が多数存在しており、AI-OCRによる実帳票の電子化、RPAによる業務の自動化により、職員の手作業を削減させ、削減した作業時間を創造的事業や市民へのコミュニケーションなどに充てることで、市民サービスの向上、職員時間外勤務削減などの働き方改革が期待できます。

※1 AI-OCR=AI(Artificial Intelligence)の技術を取り入れたOCR(Optical Character Recognition/Reader)。

※2 RPA=Robotic Process Automation の頭文字。ソフトウェアロボットが業務プロセスを自動で処理する。

【背景】

白河市では、少子高齢化の進展、市民の価値観・ライフスタイルの多様化など社会環境が変化する中、ITや限られた人的・経済的資源を有効に活用することにより、市民サービスを維持・向上、行政運営の効率化を推進しています。

このような中、自治体業務におけるICT利活用の本格導入検討に向け、今回AI-OCRによる実帳票の識字率検証に留まらず、AI-OCRとRPAによる業務効率化の効果検証を実施することとしました。

NTT東日本はAI-OCR技術と、社内の業務効率化を通じて蓄積したノウハウを組み合わせることで「紙を使用した業務の効率化」という、どの自治体・企業等にも存在する経営課題の解決に貢献できると考え、本実証にいたしました。

今後、当社では自治体業務のデジタル化を推進する新たなサービスの展開などを検討してまいります。

1. 実証実験期間 2020年2月4日～3月31日

2. 対象業務 白河市における市役所業務

3. 白河市とNTT東日本の役割

・白河市

実証実験を実施する業務および実施場所の選定、AI-OCR+RPA ツールのインストール端末の準備、AI-OCR+RPA ツールの運用、実証実験結果の提供等

・NTT東日本福島支店

AI-OCR+RPA ツールの提供、AI-OCR+RPA ツールの導入支援(業務の絞り込みからシナリオ作成までの支援)、実証実験結果の取りまとめ等

【参考】

